

二〇一一年度 入学試験問題

法学部A方式I日程・文学部A方式II日程・経営学部A方式II日程

二限 国 語 (60分)

〈注意事項〉

- 一 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないこと。
- 二 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
- 三 マークシート解答方法については下記の注意事項を読みなさい。

マークシート解答方法についての注意

マークシート解答では、鉛筆でマークしたものを機械が直接読みとって採点する。したがって、解答はHBの黒鉛筆でマークすること(万年筆、ボールペン、シャープペンシルなどは使用しないこと)。

一 記入例 解答を3にマークする場合。

(一) 正しいマークの例



(二) 悪いマークの例



枠外にはみださないこと。



○でかこまないこと。

二 解答を訂正する場合は、消しゴムでよく消してから、あらためてマークすること。

三 解答用紙をよごしたり、折りまげたりしないこと。

四 問題に指定された数よりも多くマークしないこと。

〔一〕 つぎの文章を読んで、後の問いに答えよ。

二〇世紀はしばしば「戦争の世紀」と言われる。もちろん歴史が教えているように、人間の世界に戦争がとどえたことはなく、むしろそれは、歴史の展開と文明の発展のもっとも重要なファクターだったとさえ言われる。にもかかわらず、この世紀がことあらためて「戦争の世紀」と呼ばれるのは、いうまでもなくそれが二度にわたる「世界大戦」を経験したからである。

世界の大部分がいちどきに戦争にまきこまれ、同じ戦争をたたかうというのは、歴史始まって以来のことであり、地球規模に広がったこの戦争は、掛け値なしに人類史上最大の事件だった。もちろんこの戦争は偶然世界に広がったわけではない。西欧先進諸国による世界分割の完了とともに、その再編をめぐって起こったこの戦争では、すでに世界がひとつの共通の政治・経済活動の場として形成され、どの国もその外に身を置くことはできなくなっていた。だから一国の利害は不可避的に多数の国の利害と絡み合う。それだけでなく、高度に組織化された産業社会の構造のために、人々の生活はそのまま戦争体制に動員されて日常そのものが戦争と化し、そのうえさらに高度なテクノロジーによって飛躍的に破壊力を高めた兵器が投入される。それらの条件がいまって戦争は世界大に広がり、あらゆる国の人々が同じ一つの火炎に包まれるという事態が出現した。こうして戦争は初めて「惑星的」になり、その惨禍は広がりにおいても人的・物的破壊の度合いにおいても未曾有の規模に達したのだった。そしてその破壊の全面化によって、人類は初めて「世界の崩壊」の現実性に直面し、戦争終結後は、廃墟のなかでも初めて共通の「戦後」を迎えたのだった。

ただジャン・ポール・サルトルが指摘したように、この「終戦」は戦争によって破られたかつての平和の帰帰を感じさせるものではなかった。むしろそれは、戦争と平和とが明確に区別された時間として交代する、かつてのような時代の終わりを画す「終戦」だった。そのことをもつともケンチョあなかつちで示したのが、戦争末期に開発された核兵器だった。核兵器はたしかに戦争のありようを決定的に変容させてしまった。それが「最終兵器」と呼ばれるのは、ただたんに「終末」のファンタズムを呼びさますためではない。この兵器は戦争をある意味で A にしてしまつたのだ。戦争がいずれにせよ勝利をめざすものだ

としても、この兵器による戦争では、仮に一方が勝つとしても、その勝利は敗北の打撃とほとんど変わらないものになってしまう。だから、ある種の社会学が主張するように、戦争がそれ自体を目的とする「消費」あるいは「蕩尽」^{とうじん}だともいうのでないかぎり、核戦争では、戦争に訴えることが戦争自体の目的を裏切ってしまうことになる。そのため、第二次世界大戦と呼ばれる戦争の終結後は、限定された地域紛争をのぞけば史上稀だといわれる「平和」が続くことになった。だがだれもが知っているようにこの「平和」は、核兵器の全地球的配備によって戦争が封じ手になり、「破滅」の恐怖によって維持された「抑止」による平和である。それが「冷たい戦争」と呼ばれたのはたんなるレトリックではない。今では平和の破綻が例外的状況としての戦争を引き起こすのではなく、この「平和」は他に選択の余地のないいわば強いられた僥倖^{ぜいよう}として、実は戦争の力学そのものによって規定され維持されてきたのである。こうして、平和が姿を変えた戦争の継続だというシニカルなギャクセツ^いが剃き出しの真理となり、世界は「平和」と呼ばれる不可能な戦争のエア・ポケットの中に宙吊りになってしまった。それが「冷戦」と呼ばれた時代の基本的な状況である。

ところで二〇世紀の世界を覆った戦争は、他の時代を特徴づけるさまざまな事件と同じような、重大だがひとつの歴史上の事件と言うにとどまる出来事ではない。日本ではこの戦争を通例「世界大戦」と呼ぶ。だがこの呼称はおそらく、出来事のある本質的なことがらを隠蔽しているように思われる。この呼称は、そう呼ばれる二度の戦争が、交戦国や係争地の名を冠して呼びえたそれまでの地域的な戦争と違って、世界大の戦争であったことの特徴を「大」という規模の強調で示している。つまりそれが普仏戦争や日露戦争あるいはクリミア戦争と違うのは、世界を巻き込んだ大戦争だったことであり、原因とケイイ^うと結果をもつひとつの出来事という点では、歴史上の他の出来事と変わらない資格で扱われる。「大」は違いが量的で B なるものであることを明示する。

だが戦争が世界大に拡大したということは、ただ単に規模の問題にはとどまらず、むしろ戦争そのものの決定的な変質を含んでいる。戦争はこれまで一度も「世界的」だったことはなかったのだ。どの戦争もそれぞれに、当事者にとっては「全体的」行為だったとしても、これまでの戦争は当事者も場所も限定されていたというだけでなく、その限定された個々の主体が、自己

の保存や強化をめざして訴える行為でありえた。ところが世界戦争ではその限定がなくなり、個々の主体は逆に「戦争」と化した世界の運動のなかに巻き込まれてしまう。つまり戦争が世界化したということは、「世界」そのものが戦争と化したということであり、個々の戦争主体(国家)の主体性は、全体としての戦争のうち^えにヨウカイしてしまうのだ。もはやどの当事者も、世界化したこの(戦争)の主体ではありえない。いいかえれば戦争の世界化は、(戦争としての世界)を露出させ、戦争の主権を個々の当事者から奪ってしまうのだ。だから「世界戦争」とは、たんに世界規模に拡大した「大」戦争というにとどまらず、むしろ世界そのものの(戦争化)を意味している。

戦争が世界化したのはけっして偶然のなりゆきからではなく、世界がそれを不可避にするような条件をもつようになった——それが技術の発展による交通手段の進化や、資本主義経済による世界市場の形成、そしてそれと国民国家との矛盾からであれ、あるいはそれらの条件をベースにしたもつと広範な人間世界の存在条件によつてであれ——からである。そして消耗戦として終わった第一次世界大戦がすでに次の大戦を準備し、この二つの世界戦争が不可避的な二重の津波のようにして起こったことが示しているように、ひとたびその条件が発動して以後は、戦争とは基本的に「世界戦争」でしかありえないのだ。だからその後も起こる地域的な武力抗争は、個々の場合が「朝鮮戦争」とか「ベトナム戦争」とか呼ばれるにしても、一般概念としては「地域紛争」や「民族紛争」に格下げされることになる。それに今あげた二つの例は、世界戦争の「抑止」作用が働くなかで、いわゆる代理戦争として戦われた、ということとは要するに潜在的には、そして戦略的には世界戦争の一環として戦われたのである。

(西谷修『戦争論』より。文章を一部改変した)

【注】 *ファンタズム 空想。幻想。ファンタジー。

問一 傍線部1「あらゆる国の人々が同じ一つの火災に包まれる」のはなぜか。その理由として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 科学技術の発達が、きわめて破壊力の大きい核兵器を生みだし、その炎が地球全体を覆ってしまったから。

イ 列強による世界の再編という流れに産業社会や科学兵器の力が加わり、どの国の人々も地球規模の戦争の外にいられなくなつたから。

ウ 歴史上、戦争が文明の進歩をもたらしてきたが、二〇世紀には全世界の人々がその文明の恩恵を受けるようになったから。

エ ヨーロッパ諸国による全世界の植民地化が終わり、世界が同じ一つの経済体制によつて動かされるようになったから。

オ 高度に組織された競争社会とテクノロジーの開発競争が日常を戦争に変え、世界中の人間がその熾烈な戦争に巻き込まれたから。

問二 傍線部2「この「終戦」は戦争によって破られたかつての平和の回帰を感じさせるものではなかった」のはなぜか。その理由として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア その戦争における破壊が、人的にも物質的にもかつてない規模のものであったため、そのあとには戦争の現実を生々しく伝える廃墟しか残されなかったから。

イ 戦争の終結後、ナチスドイツによるホロコーストや日本に落とされた原子爆弾による被害などの現実が次第に明らかになり、全世界が戦慄することになったから。

ウ 戦争の勝利を無意味にする核兵器の登場によって、そのあとに訪れた平和はもう戦争を起こせないという戦争の脅威によって維持されるものになったから。

エ 第二次世界大戦末期に開発された核兵器は、それを配備しようとする国家間の熾烈な競争と、その競争が連想させる核戦争による終末のイメージをもたらしたから。

オ 核兵器の出現によって全面戦争は回避され、平和が実現されたことになっているが、実際にはその後もどこかで戦争は起きつつづけており、現実の世界は平和とはほど遠いから。

問三 空欄 A ・ B に入る語句として、最も適切なものをつぎの中からそれぞれ選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 不可能 イ 幻想的 ウ 絶対的 エ 相対的 オ 不可避 カ 地域的 キ 二律背反 ク 惑星的

問四 傍線部3「戦争そのものの決定的な変質」とはどういうことを意味しているか。本文全体の筆者の主張を踏まえ、三十五字以内で説明せよ。ただし、句読点や記号も一字と数える。

問五 つぎの各文の中から本文で述べられている内容と一致するもの一つを選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 第二次世界大戦以降の戦争は、すべてアメリカ合衆国と旧ソビエト連邦のような対立する国家同士の世界戦略を意味する、世界戦争の一環として起きるようになった。

イ 二つの世界大戦によって示されたように、それまでは国家が当事者として相手も場所も限定して戦争を行ってきたが、それ以降はその限定を失って世界化された戦争に国家が動かされるようになった。

ウ 二〇世紀に起きた二つの世界大戦がそれ以前の普仏戦争やクリミア戦争、あるいはそれ以後の朝鮮戦争やベトナム戦争と本質的に違うのは、全世界を飲み込んだその津波のような力の大きさである。

エ 核兵器が出現した第二次世界大戦以降、あらゆる戦争は全世界を滅ぼす核戦争にいたる可能性をもっており、その意味ですべての武力抗争は核戦争の代理にしかすぎなくなった。

オ 二〇世紀に起きたのは高度に組織された社会構造や破壊力の大きな兵器の力で日常が戦争と化すという事態であり、それ以降の世界で個々の主体は戦争化された日常を生きなくてはならなくなった。

問六 二重傍線部あくえのカタカナを漢字に直して解答欄に記せ。

〔二〕 つぎの文章を読んで、後の問いに答えよ。

数年前、日本人学生対象の授業で、教科書に載っている短い文章を音読するというテストを実施した。学生が数人ずつ前に出て、指定された箇所を読み上げる。前に出てきた学生の一人が私に言った。

「教科書、忘れてきちゃったんです。貸してもらってもいいですか」

私は「いいですよ」と答えた。忘れてきてしまったものを今さらとやかく言ってもしょうがない、今日のところは友達に借りるなりして読むほかないだろう。私はそう考えながら、学生が教科書を調達してくるのを待とうとした。

ところが、当人はその場を動かこうとしない。しかも何かを待っている様子だ。その視線は教卓の上の私の教科書に向けられている。このときになって初めて、学生の言った「貸してもらってもいいですか」の意味を理解した。友達に貸してもらってもいいかと私に許可を求めたのではなく、私の教科書を貸してほしいという依頼だったのだ。なぜ学生は、「貸してください」と言わなかったのだろうか。

「貸してもらってもいいですか」と言うときには、話者と相手のほかに、もう一人の人物の存在があると、私は長い間思っていた。たとえば、試験を受けている最中に、消しゴムを忘れた学生が隣に座っている友達に借りようとする。しかし、横を見たり手をのばしたりすると、監督者に不審を抱かれる恐れがある。そのため、「隣の人に消しゴムを貸してもらってもいいですか」と試験監督に声をかけて、許可を得ておく。横にある消しゴムを指差して、「貸してもらってもいいですか」とだけ言うてもよい。消しゴムを貸すという動作を行うことが期待されているのは、質問が向けられている相手ではなく、別の人間だ。相手にはあくまで許可を求めている、貸してくれとは言っていない。これが私の認識だった。

許可を求める形をとって相手に依頼する言い方が流行り始めていることに、気づいてはいた。音読テストの少し前だったと記憶しているが、テレビでお笑いタレントが先輩芸人に向かって、「ちよつと待ってもらってもいいですかア」と言ったのだ。先輩が後輩をからかって、あることないことを面白おかしくしゃべっていたときに、後輩タレントの口からこの言葉が出た。そ

のような場面で相手の発言を制するのに、お笑いタレントたちがよく用いていた表現は、「ちょっと待ってくださいよ」だった。

「待ってください」という依頼の表現が、「待ってもらっていいですか」という許可を求める表現になった。その変化を目の当たりにして、テレビの影響は大きいから、今後この言い方がどんどん広まっていくだろうと気が重くなった。

日本人学生対象の授業で、こうした紛らわしい表現をむやみに使用しないほうがよいのではないかと提案したことがある。すると、複数の学生から反論と質問がきた。まとめると、次のような内容だ。「この言い方のどこが紛らわしいんですか。これは、話し手が聞き手に何かをしてもらいたいときに言う言葉です。依頼の表現です。許可を求めるって、何ですか。紛らわしいって、どういうことですか。意味がわかりません」

意味を説明しよう。「でもいいですか」という言い方が許可を求める表現であることに、学生たちも異論はあるまい。「ここでタバコを吸ってもいいですか」というのは、「私はここでタバコを吸いたいのですが、許可してくれますか。ここは喫煙可能な場所ですか」ということをたずねている。言われたほうは、「もちろん、いいですよ」と許可を与えるか、または、「私、煙に弱いんです。ごめんなさい」と言って拒絶することも可能だ。問われたほう、つまり許可を求められた側には、イエスと答える権利も、ノーと答える権利もある。もっとへりくだった言い方で許可を求めることもできる。「お戻りになるのをこちらでお待ちしていてもよろしいでしょうか。もしお邪魔なようでしたら外に出ておりますが」というのも、その場所で待つことが可能かどうかたずねている。可能ならイエス、不可能ならノーという、どちらかの返事を待つ姿勢だ。

それに対して、自分が待つのではなく相手が待つことを期待する「待ってもらってもいいですか」は、形の上では「でもいいですか」と許可を求める表現になっているが、相手からのイエスかノーの返事を待っているわけではない。諾否の裁量を相手に委ねていない。やわらかい物言いでありながら、有無を言わさぬ命令のようになっていて、へりくだった言葉づかいになると、それがいつそう際立つ。銀行のカウンターで、「おかけになってお待ちいたいたいてもよろしいでしょうか」と言われると、従来の依頼の表現である「おかけになってお待ちください」よりずっと、上から下への命令口調のように聞こえるのだ。「ここ

でタバコを吸つてもいいですか」という表現の中には、「ここでタバコを吸つてはいけませんか」という意味が含まれるが、依頼として使われる「待つてもらってもいいですか」にはそのような裏の意味がない。そもそも、このような場合に「待つてもらってはいけませんか」という言い方自体成り立たない。むしろ、第三者が存在する本来の許可を求める表現ならば（たとえば、「先生、患者さんいらしてまずけど、診察室に入って待つてもらっていいですか。それとも、待合室で待つてもらいますか」）、「待つてもらってはいけませんか」が成り立つ。

もう一つ例を挙げてみよう。

「隣の人に答えてもいいですか」

「隣の人に答えてもらってもいいですか」

どちらも許可を求めていることにはかわりないが、だれがだれに教えるかという点、前者は話しているこの「私」が隣の人に教え、後者は隣の人が「私」に教える。違いは明らかだ。そして、許可を求められた側は、許可するなら「はい」、許可しないなら「いいえ」と、自らの意思のままに答えればよい。質問者もそれを承知している。

では、次はどうか。

「答えて教えてもらってもいいですか」

だれがだれに教えるのか。だれにのほうははっきりしている。もちろん「私」だ。では、教授する人物は？ これについて、私は紛らわしいと言ひ、学生は紛らわしくないと云った。

存在を暗示することができるわけで、これはそのケースだから、もう一人のだれか、たとえば隣の人が、**B**に教える、というもの。一方、**C**にとつてこれは純粹な依頼の表現であり、したがつて、今「私」が話している相手、つまり

Dが教える。「答えて教えてください」というのと全く同じ意味だということだ。現在ではこの第二の解釈が可能になったことが紛らわしさの原因だと私は思っているわけだが、学生のように依頼の表現としか捉えていなければ、紛らわしくも何ともないことになる。

「タバコを吸わせてください」と言うより、「タバコを吸ってもいいですか」と言ったほうが、謙虚な印象を与える。下手に出ている。許可を求めているからだ。「てください」を始め、数々の依頼の表現があるにもかかわらず、「でもいいですか」という言い方が好まれるということは、すなわち、ストレートに依頼することができなくなったということだ。許可を求めるという体裁をとらないと、人にものを頼むこともできなくなった。

形の上では遠慮と低姿勢の産物のようなこの表現だが、矛盾をはらんでもいる。現在この言い方を好んで使っている人たちは思ってもみないことだろうが、少なくともこの言葉が使われ始めたころには、この表現に悩まされた人間もいたのだ。

(野口桂子『バカ丁寧化する日本語』より。文章を一部改変した)

問一 傍線部 a「なぜ学生は、「貸してください」と言わなかったのだろうか」とあるが、その理由を筆者はどのように考えているか。筆者の考えとして適切でないものをつぎの中から一つ選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 「くてもいいですか」と言えば、先生に対して丁寧で謙虚な姿勢を示すことができる、という認識が学生の側にあったから。

イ 「くてももらってもいいですか」という表現が、より丁寧な依頼表現として若者達の間につきり定着してしまっているから。

ウ 「貸してください」と言うだけでは依頼がストレート過ぎるので、学生が自分の希望をもっと遠回しに表現したかったから。

エ 「貸してもらってもいいですか」を使用して第三者の存在を暗示することで、依頼がより婉曲になると学生が考えたから。

オ 「くてください」ということばで自分の要望を率直かつ簡潔に伝えることが、容易にしづらい世の中になってしまったから。

問二 傍線部b「気が重くなつた」とあるが、その理由として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 依頼することと許可を求めることは相容れない行為であるはずなのに、それを混同した言語使用が今後常態化すると感じたから。

イ 言葉の解釈の多様性と複雑さについて深く考えていない芸能人の、過度に低姿勢な言葉遣いが今後常態化すると感じたから。

ウ 目上の人にものを頼む際に、第三者の存在を暗示して相手を説得するという狡猾な慣習が、今後常態化すると感じたから。

エ 自分の要望を端的に伝えず、許可を求めるというかたちで依頼に代える迂遠な言いまわしが、今後常態化すると感じたから。

オ 許可を求めることで依頼を伝えるという芸能人の横車を押すような言語行動が、メディアの影響で今後常態化すると感じたから。

問三 傍線部c「やわらかい物言いでありながら、有無を言わさぬ命令のようになってい」るとあるが、これに最も近い意味を表した四字熟語をつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 傍若無人 イ 慇懃無礼 ウ 厚顔無恥 エ 無知蒙昧 オ 虚心坦懐

問四 傍線部d「そのような裏の意味がない」とはどういうことか。その説明として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア どのように依頼しようとも、最終的にイエスともノーとも答える権利を有しているのは自分ではなく相手だということ。

イ ただ純粹に相手の許可を求めているだけであり、それ以外のくたぐだしい含みなどは持っていないということ。

ウ 話し手がいくら謙虚に許可を求めたとしても、そもそも許可を与える権利が相手側にならないということ。

エ 肯定文・否定文のどちらを用いて依頼しようとも、尋ねている内容に違いはないということ。

オ 自分の依頼が否定されるなどということが、そもそも想定されていないということ。

問五 空欄

A

D

に入る語句として最も適切なものをつぎの中からそれぞれ選び、解答欄の記号をマークせよ。ただし、同じ選択肢を重複して用いてはならない。

ア 私

イ 学生

ウ 第三者

エ 「私」

オ 「あなた」

問六 「くってもらってもいいですか」という表現が依頼表現として使用されることを、筆者が問題視しているのはなぜか。つぎ

の形式に従って、解答欄に二十五字以上、三十五字以内で記せ。ただし、読点や記号も一字と数える。

この表現は

から。

〔三〕 つぎの文章を読んで、後の問いに答えよ。

きのふこそさなへ取りしかいつのまにいなばもそよと秋かぜの吹く

この歌、またおぼつかなし。四五月に植ゑたらむ田は、八九月にこそ、いできとこのほりて、いなばもそよには波よるべけれ。昨日、さなへにて植ゑたらむ苗の、ひと夜を経て、秋かぜに波よらむこと、まことにあやしき事ぞかし。これは、ひと夜をへだてて、秋風に波よるべきにはあらし。ただ、月日の程もなく過ぐるをいはむとて、事たかく昨日今日とおぼゆること、かずふれば、年つもりにけりなどいふことのあるがごとし。かやうに心得つれば、なに事もやすくなりぬ。

潮満てば入りぬる磯の草なれや見らくすくなく恋ふらくのおほき

この歌は、ひが事とも申しつべし。磯の草を、恋ひしき人にたとへて、潮満ちぬれば、海のそこにかくれ、潮の干ぬれば、出でくるをみるなむまれなる、と詠めるが、海の潮の満ち干ることは、一日に一度、必ずのことなり。月の出で入るにしたがひて、かはれども、つひに、満ち干ることは、あへて絶ゆることなし。この歌の心は、海の潮は、満ちては日ごろのありて、たまたま干ては、ただ一日ありて、また、満ちぬれば、十日二十日も、干ることのたまさかなるやうに詠まれたるなり。これ、あやまりと、打聞きはおぼゆれど、磯の草は、潮の満ち干るにしたがひて、あらはれ隠るることは、おなじ程あれども、明け暮れ、めもかれず、見まほしき人の、たまさかにも隠れて見えぬが、つねに潮の満ちて、隠したるやうにおぼゆるなり。たとへば、いたきところのものにあたるがごとし。まことにはたまさかにあたれど、いたさに常にあたるがやうにおぼゆるがごとし。それがやうに見えぬことはおなじ程あれど、あかぬおもひのあながちなれば、見ゆることはなほたまさかにおぼゆる

と詠めるは、めでたくこそ聞こゆれ。この歌、いとしもなからむには、拾遺抄に入らまじや。^{*}

〔俊頼髓脳〕より

*拾遺抄 藤原公任撰の歌集。

問一 二重傍線部①「か」②「る」③「む」④「に」⑤「き」の文法的説明として最も適切なものをつぎの中からそれぞれ選び、解答欄の記号をマークせよ。

- | | | | | |
|----------|---------|---------|----------|-------|
| ア 動詞 | イ 動詞の一部 | ウ 形容詞 | エ 形容詞の一部 | オ 助動詞 |
| カ 助動詞の一部 | キ 助詞 | ク 助詞の一部 | | |

問二 傍線部I「これ」の意味する内容として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

- ア 稲の成長周期
- イ 四季の巡り来る時間的秩序
- ウ 冒頭の引用歌の表現意図
- エ 冒頭の引用歌に見られる作者の自然認識
- オ 本文筆者による評価

問三 波線部 a「やすく」b「ひが事」c「あへて」d「あながちなれ」e「めでたく」の意味内容として最も適切なものを、つぎの中からそれぞれ選び、解答欄の記号をマークせよ。

a 「やすく」

ア 安心しやすく

イ 優雅に

ウ 理解しやすく

エ つまらなく

オ 平板に

b 「ひが事」

ア 伝統を無視していること

イ 表現が安定していること

ウ 詩情に溢れていること

エ 恋情に満ちていること

オ 条理に反していること

c 「あへて」

ア たぶん

イ けつして

ウ ふたたび

エ ともに

オ 必ずしも

d 「あながちなれ」

ア 一途だ

イ 身勝手だ

ウ 僅かだ

エ 優位だ

オ 混乱している

e 「めでたく」

ア 非常に喜ばしい

イ 申し分なくすばらしい

ウ あきれるほど愚かしい

エ たいそう慎重深い

オ 軽率で嘆かわしい

問四 傍線部1「かれず」2「あかぬ」の漢字表記として最も適切なものをつぎの中からそれぞれ選び、解答欄の記号をマークせよ。

- | | | | | |
|---------|-------|-------|-------|-------|
| 1 「かれず」 | イ 借れず | ウ 離れず | エ 枯れず | オ 涸れず |
| ア 刈れず | イ 空かぬ | ウ 明かぬ | エ 飽かぬ | オ 厭かぬ |
| 2 「あかぬ」 | | | | |
| ア 開かぬ | | | | |

問五 傍線部Ⅱ「昨日今日とおぼゆること」の、かすふれば、年つもりにけり」の意味に最も近い内容を表現している歌をつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

- ア 世の中はなにかつねなるあすか川昨日の淵ぞ今日は瀬になる
- イ 昨日といひ今日と暮らしてあすか川流れてはやき月日なりけり
- ウ 昨日今日嘆くばかりの心地せば明日にわが身やあはじとすらん
- エ 明日からは若菜摘まんとしめし野に昨日も今日も雪はふりつつ
- オ をとつ日も昨日も今日も見つれども明日さへ見まくほしき君かも

問六 傍線部Ⅲ「いとしもなからむには、拾遺抄に入らましや」の意味として最も適切なものをつぎの中から選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア それほどうすばらしい歌ではないので、拾遺抄には入らなかつたのだろう。

イ それほど価値の高い歌ではないので、拾遺抄には入らなかつたそうさだ。

ウ それほど悪い歌ではないが、拾遺抄には辛うじて入ることができた。

エ それほどたいした歌でないとしたら、拾遺抄に入ったであろうか。

オ それほど評価の高い歌だとしたら、拾遺抄に入れたであろうか。

問七 筆者は二首の歌のどのような点を評価しているか、二十五字以内で解答欄に記せ。ただし、句読点も一字と数える。

問八 『俊頼髓脳』は平安時代に作られた歌論書である。つぎの中から平安時代の作品でないものを二つ選び、解答欄の記号をマークせよ。

ア 大鏡

イ 宇津保物語

ウ 狭衣物語

エ 金槐和歌集

オ 金葉和歌集

カ 無名抄

〔四〕 つぎの各文の空欄に入る漢字一字を解答欄に記せ。

- 1 兵士たちは従□として戦場へと赴いていった。
- 2 運動場からボールが飛んできて危機□のところで身をかわした。
- 3 袖触れ合うも多□の縁、せつかく知り合いになれたのだから仲良くしましょう。
- 4 卒業式での恩師の言葉を、肝に□じておこうと思った。





